

【ねがいましては】

平成25年10月25日

KYOWA SCHOOL

第276号

「意識その2」

前回、川村妙慶さんのウサギとカメのお話からのつづきです。ウサギはウサギらしく時間を使えば良かったわけで、たまたまカメがいたことで自分自身の人生に狂いが生じてしまったことになります。

先日、今年4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果から下位校の校長名を公表しようとした静岡県知事さんのことが報道されました。結局、上位校の発表へと変わったわけですが、まさに他県を意識するが上の行動であったと思われる。

テストをし、結果を公表すれば、必ずどこかは1位になりますし、必ずどこかはビリになります。それを気にするあまりに感情が先走り、今回のようなことになったのかなと思います。

日本国内で大々的に行うテストであっても、やはり他の都道府県は気になるでしょうし、これを中学校単位にまで移しても同じ現象が起こると思うのです。

仮に地元のA中学校とB中学校の平均値が公表されれば、おそらく来年入学を控えている6年生たちは、成績上位の中学校を選択するかもしれません。それだけ数字はシビアですし、それぞれ学校内の学力以外の様々な良い点もかすんでしまいがちになると思います。

教育の原点である「人間形成」を忘れて、ただただ点数主義の世界へと流されていってしまいます。

もっともっと先を見つめた取り組みをすべきであると思います。

その中心にならなければならないことが、子どもたちが前向きな生活を送ろうとすることです。常に前へ前へと歩みを進めるような生活です。競争ではない歩み方です。

中学校現場では、中間テストで順位が出、期末テストで順位が出、それぞれの子どもたちは上がったの上がったのと、順位競争に明け暮れてしまいます。本当は、この前やった理科の実験を、時間をかけてやりたかった。テスト範囲ではないところにとっても興味が湧いていたのに、テスト勉強に追われて、いつの間にかそのままになってしまった。

かえって定期テストをすることでマイナス面のほうが目立つくらいに、子どもたちの心を前向きにすることの方が大切なのではないでしょうか。そのような心を持った子どもたちには、もう「意識」などどこにもありません。ただ自分の道を歩むだけ。

隣り合った中学校どうしの交流を深めたり、地域の方々との交流を深めたり、社会生活の原点を培うことが大切だと思います。

学校と自宅との往復だけの毎日、学校でも競争、部活でも競争、家庭でも負けてはダメだ（成績を上げなさい）とお説教。これでは自宅を一步出た世界は、すべてが敵になってしまいます。

ウサギとカメのお話が、実はウサギさんはカメさんと出会ったとき、お互いに生きる道は違うはず、見たくれも違うし生活も違うのだから、どちらが先に目的地にたどり着くかなどばからしいことだから、お互いに「らしい」生き方をしていきたいと思います、あいさつを交わして走ったり歩いたりすればいいのではないのでしょうか。

さてと、子どもたちさん。どうやら学校へ入った瞬間から「意識」せざるを得ない空間へと放り込まれたようですね。意識をしたらいいいことないよって、昔の方々が教えてくれているではないですか。ウサギはウサギ、カメはカメ。それぞれの個性あふれる生き様を精一杯にしてこそ「しあわせ」はやってくるのではないのでしょうか。

道ばたに咲く小さな花を見、「かわいいね」って、ほほえんだことはありますか。道ばたに咲く小さな花に気づかずに、「くそーっ今度こそあいつに勝ってやる」なんて息巻いてませんか。どちらが幸せかな。

人は人、自分は自分、自分が生き生きした生活を送れているか、家族に「ありがとう」の一言が言えるような心でいますか。

とかく近くにいる方々には、距離が近すぎて「ありがとう」が出てきません。

意識してしまうとあまりいいことがないので、せめて意識しないでいつも近くにいる方々に感謝の気持ちを抱いてみてはどうでしょうか。

お父様、お母様、お子さんを意識しすぎるあまりに、ついつい他のお子さんを意識し、わが子を苦しめてはいないでしょうか。

子どもたちよ、ついつい他のご家庭の環境を意識しすぎるあまりに、お父様やお母様にわがままな願い事をしていませんか。

やっぱり「意識」ってあまりいいことはなさそうですね。

今ごろウサギさんとカメさんは、楽しそうにおしゃべりをしているかもしれません。

「ねえ、ウサギさんは足が速くていいですね。」「いやー、早すぎて目立ってしまうので、キツネさんたちにいじめられるんですよ。カメさんこそ、のんびりと生活なさっていいじゃないですか。」「そうですねー、おかげさまで長生きできてます。ありがとうねー！」